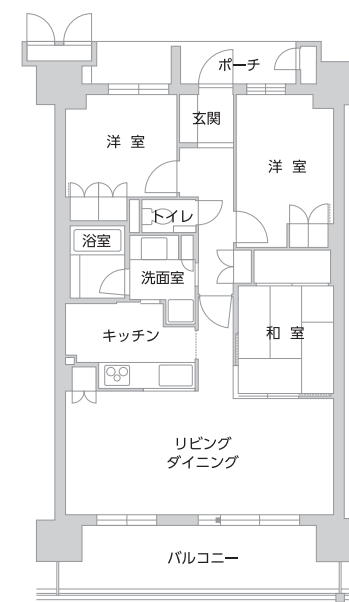


# 自由な発想と“らしさ”が光る、「オトナ家族」の住まいづくり。



BEFORE



住居専有面積約76㎡の3LDK。半ば物置化している和室スペースを有効活用し伸びやかな空間をつくりたい。コストを抑えるためにも水回りは現状維持を希望。

AFTER



## living & dining

壁の広さを利用して設置したオープン棚には、こつこつ集めたこだわりの雑貨や大好きなアートをディスプレイ。「それ素敵だね!」「どこで買ったの?」と、ゲストたちも興味津々。見せる収納と隠す収納を上手に使い分ける計画を立てましょう。

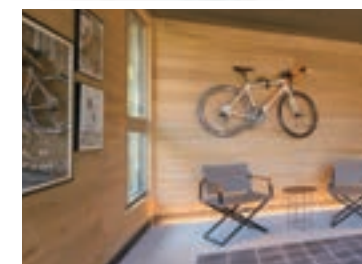
仕切りのないオープン棚は詰め込まずゆとりを持たせることがポイント。本と小物のバランスもセンスの見せ所です。



## entrance hall

玄関土間を思い切り広げて、使い勝手を良くしました。夫婦共通の趣味を楽しむ空間にしたり、こんな風に和室と一体化すればご近所さんとのコミュニケーションスペースとしても活躍します。

＋  
自転車はハンギングにすればちょっとしたインテリアにも。スペースの有効活用にもつながります。



## kitchen

子どもの成長などで食事時間がまちまちになっても使いやすいように、キッチンセミクローズドに。新たにパントリーを設けて収納量も増やしました。



## bed room

玄関側にあった夫婦の寝室をバルコニー側に大移動。明るく気持ちのよい朝を迎えることができます。床をカーペットに、天井を木貼りにしたホテルライクなインテリアプランなら、くつろぎ感もぐんとアップします。

## public area

土間からバルコニーまで一気につながれた、伸びやかで風の抜ける空間づくりがこのリノベーションプランの魅力。家族との団らんや接客など、シーンに合わせて多目的に使うことが可能です。障子を閉じると独立スペースになる和室は、ゲストが宿泊する際にも重宝します。

＋  
和室の床下収納には来客用寝具や季節用品を。玄関側とダイニング側の両サイドに設けることで利便性と収納力が高まります。



## 水回りは動かさずポテンシャルを活かす。

とはいえ、広さや予算には限りがありますし、マンションには構造や管理規約などさまざまな制約があるのも事実です。ただ、キッチンやバスルームなどの水回りはそのままに、リビングダイニングや寝室の心地よさをアップしたり、広い壁面を活かしてディスプレイに凝るなど、そこは知恵と工夫次第。BEFORE・AFTERを参考に、「オトナ家族」の夢を思う存分膨らませてください。

※掲載プランはサンプルであり、リノベーション可能な範囲・内容は住戸によって異なります。

## 感性×意外性で他にはない空間づくりを。

いつも親のあとを歩いて歩いてきた子どもも、気がつけば家族より友達が最優先の中学生。子育てがひと段落するまでは…とこの次にしていた自分たちの時間、住まいへの想いをこれからはどんどん主張していこう! そんなアラフォー世代のご夫婦にぜひチャレンジしてほしいのが、自分たちらしさがキラリと光る、オリジナリティ溢れる空間づくりです。

住まいに新たな価値をもたらすリノベーションの可能性をさまざまな角度から探る「イマドキ・リノベーションの処方箋」。今回は、子育て繁忙期が過ぎ、自分たちらしい暮らし方を、住まい方に向き合うタイミングを迎えた「オトナ家族」へのご提案です。趣味を楽しむスペースをつくりたい、ディスプレイにこだわったり、心の中でずっと温めていた住まいの夢、叶えてみませんか?



## リノベーションってどんな風に進めるの?

リノベーションを検討するにも、何をどうすればいいのかわかりませんよね。特にマンションの場合は、工事期間中の近隣への対応や自分たちの生活空間も気になるところ。フォロー体制が整っているリノベーション会社を選びましょう。ご家族側はヒアリングまでに仕上がりイメージや予算など、夢の整理を。理想に近い事例をインターネットや雑誌からピックアップし担当者に見せる、というのも一つの手です。

### 【一般的なリノベーションのフロー】

- ①ヒアリング → ②お住まいの調査 → ③プランご提案 → ④お見積もりご提出 → ⑤資金計画ご相談 → ⑥契約 → ⑦仮住まいなどのサポート → ⑧管理組合への着工届出・近隣へのご挨拶 → ⑨着工 → ⑩検査 → ⑪お引き渡し → ⑫アフターサービス